



# 和白干潟ゾーン

W A J I R O H I G A T A

和白干潟ゾーンには広大な干潟が広がり、海辺に特有の海浜植物群落も見られる豊かな自然環境が残された場所で、野鳥や海生生物など多様な生態系を支える場所となっています。

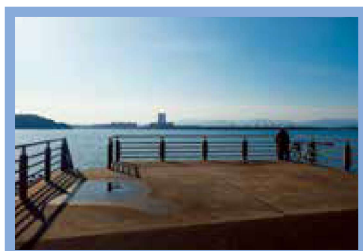
春になると毎年多くの人々が潮干狩りを楽しみ、秋から春にかけては多くの渡り鳥が飛来するため、バードウォッチングを楽しむこともできるなど、自然とふれあうには格好の場所です。

平成15年には国の鳥獣保護区に指定され、平成21年には干潟としては全国で唯一「にはんの里100選」に選ばれました。

## 干潟を中心とした豊かないのちを育むゾーン

### 【この地域への交通アクセス】

- 「和白干潟(海の広場)」へは
  - ・西鉄貝塚線「唐の原」下車 徒歩約7分
  - ・JR香椎線「和白」下車 徒歩約12分
- 「雁の巣海岸(雁の巣鼻)」へは
  - ・西鉄バス「雁の巣レクリエーションセンター」下車 徒歩約15分
  - ・JR香椎線「雁ノ巣」下車 徒歩約20分
- 「塩浜海岸(遊歩道・展望台)」へは
  - ・西鉄バス「塩浜」下車 徒歩約10分



和白干潟を一望できる展望台(塩浜海岸)



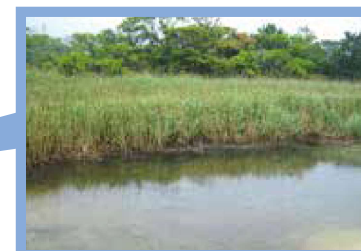
がんのまはな  
雁の巣鼻



雁の巣海岸 (海の中道大橋から撮影)



イメージ図



海岸に広がるヨシ原



干潟で休息するツクシガモ

和白干潟 (牧の鼻から撮影)





# 1 和白干潟

博多湾は干満の差が大きい大潮時には、約6時間で海面の高さが約2メートル変化します。遠浅の和白干潟では、干潮時に約80ヘクタール(ヤフオクドーム12個分)の干潟があらわれ、遠いところでは約400m先まで海水が引いていくので、満潮時と干潮時では下の写真のように景色が一変します。干潟は砂質で、運動靴で歩くこともできます。

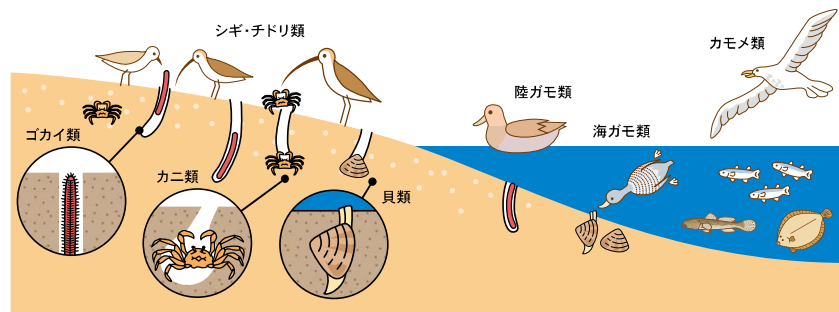


潮が引くと目の前に大きな干潟が広がります。



## コラム 干潟の役割

干潟には、ゴカイ類、貝類、カニ類などの砂の上や中でくらすたくさんの生きものがいます。これらの動物たちは、干潟の砂や海水に含まれる栄養を食べたり、動き回って砂をかき混ぜたりすることによって、干潟や海水をきれいにしています。また、これらの動物たちは、海や河口にすむ魚や、シギ・チドリ類、カモメ類、カモ類などの多くの鳥の食べ物となるため、多くの鳥たちが渡りの旅の途中や冬を過ごす場所として食べ物の豊富な干潟を訪れます。



# 2 海の広場から唐原川河口にかけての海浜植物群落

この一帯では、日本の海岸の原風景である海浜植物の群落が生息に広がり、博多湾では少なくなった貴重な海辺の自然景観を楽しむことができます。

また、海岸でしか育つことのできない植物(海浜植物)が10種類以上観察できる貴重な場所でもあります。例えば、



ウラギク ヨシ シバナ

他には、ヒトモトスキ、ハマツツナ、シオクグ、ナガミノオノシバ、ハマニンニク、イソホウキギ、ホソバナノハマアカザなどを見ることができます。



海浜植物群落 航空写真

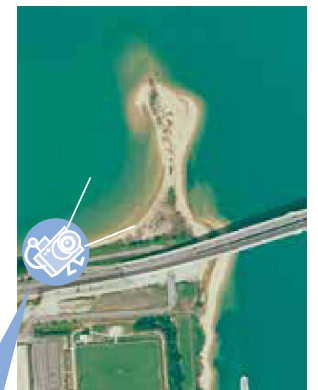
# 3 雁の巣鼻

雁の巣鼻は長年の潮の流れによって砂が溜まってできた砂嘴※です。

この一帯は、海の広場からのながめとはまたひと味違う素晴らしい自然の景観を楽しませてくれます。

また、海浜植物の観察もでき、雁の巣鼻で見られるハマニンニクは、ここ博多湾が生育場所としては日本で最も南であるといわれています。

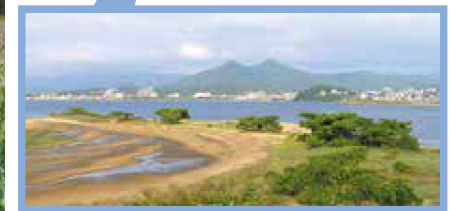
※砂嘴:潮の流れで運ばれてきた砂が堆積してできた 嘴(くちばし)形の地形



雁の巣鼻 航空写真



ハマニンニク群落



雁の巣鼻



## 4 塩浜海岸（護岸・遊歩道・展望台）

明治時代までは塩田として利用されていた地域で、護岸も100年以上前に整備されたものでしたが、老朽化が激しかったため、生きものの生息環境にも配慮した護岸に改修しました。それと同時に、海辺を散歩できるように遊歩道や展望台も整備し、今では市民の憩いの場として利用されています。

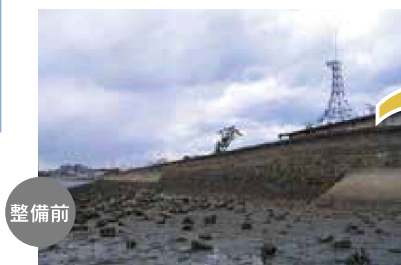


護岸沿いの遊歩道



和臼干潟を一望するのに最適な展望台

塩浜護岸



整備前

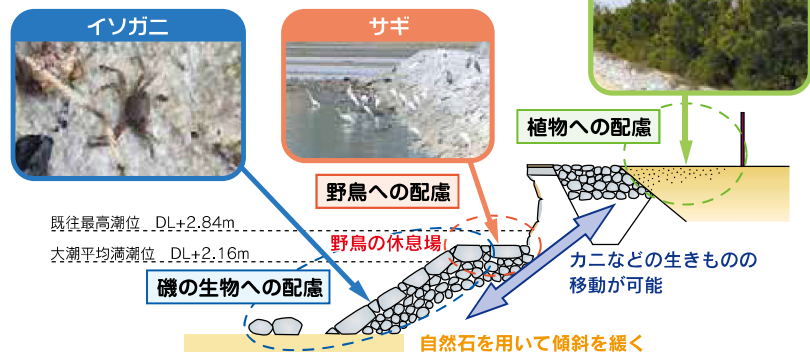
老朽化が激しかった護岸



整備後

生きものの生息にも配慮して整備した護岸

### 塩浜海岸の生きものへの配慮



※DLは“最低水面”とも言われ、DL 0.00mが1年間で最も潮が引いた時の海面の高さに相当します。

## 和臼干潟の楽しみ方

### その1 潮干狩り

#### ●事前のプランニング

潮汐表を見て干潮時間をチェック！よく潮が引く大潮が狙い目！  
＊潮汐の情報は新聞や「福岡市海づり公園ホームページ」で見られるよ！  
福岡市海づり公園のURL <http://www.umizuri.com/>

#### ●必須アイテム

- ・熊手 ・バケツ（アサリ持ち帰り用）
- ・長靴 ・帽子

#### ●アサリはどんな場所に多い？

- ・泥の場所よりも砂の場所
- ・できるだけ干上がる時間が少ない場所（できるだけ沖側）
- ・アサリは5～10cmくらい潜っている。（深く掘りすぎてもいない）

#### ワンポイントアドバイス

アサリの砂抜きは潮干狩りをした場所の海水を持ち帰って使うと早いよ!!



### コラム 潮干狩りの流儀

潮干狩りにはルールがあります。このルールを守って楽しみましょう！

ルールは皆さんがずっと潮干狩りを続けられるように（アサリが卵を産み続けられるように）福岡県の規則などで設けられています。

本ガイドブック裏面の  
定規で確認しよう!

- 一. 3cm以下のアサリは獲らない
- 一. 幅35cm以上のじょれんは使わない

じょれん ▶

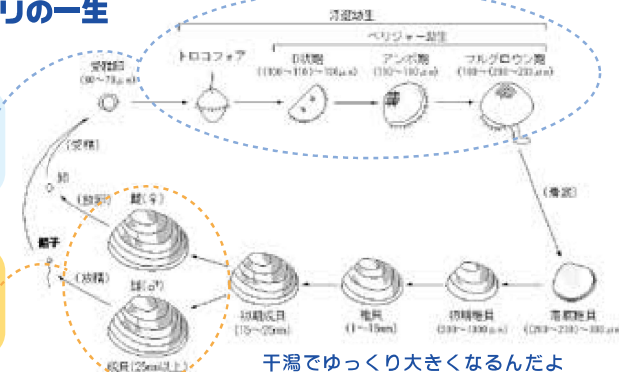


データBOX

### アサリの一生

プカプカ海を漂ってるよ（2週間くらい）

卵を産める大きになるまで1年くらいかかるんだ！



干潟でゆっくり大きくなるんだよ



## 和白山潟の楽しみ方

## その2 バードウォッチング



## ●事前のプランニング

図鑑などを見て、今の季節に見られる鳥の種類をチェック！

- ・夏はサギが中心で、鳥の数は少ない。
- ・春と秋は世界をまたにかけて移動するシギやチドリの仲間が立ち寄る。
- ・冬はカモを筆頭にたくさんの渡り鳥が飛来する。

→初めての人は、サイズが大きくてたくさん飛来するカモが見やすいカモ



## ●必須アイテム

- ・双眼鏡
- ・図鑑(見た鳥の名前がすぐ分かる)
- ・エコパークゾーンガイドブック(本紙)

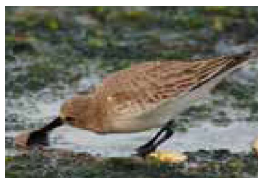
## ●観察しやすい場所

- ・海の広場
- ・塩浜海岸(遊歩道・展望台)
- ・雁の巣海岸
- ・唐原川河口

## ●観察のマナー

- ・野鳥を驚かさないように「しずかに、そーっと」観察しよう
- ・野鳥に近づきすぎず、飛び立たせないようにしましょう
- ・近隣住民の生活、通行の邪魔にならないようにしましょう
- ・ゴミは持ち帰ろう

## 和白山潟で見られる鳥たち



ハマシギ(全長約21cm)

秋  
冬  
春

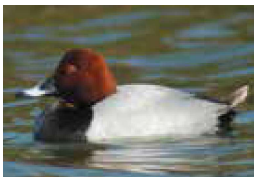
スズガモ(全長約45cm)

秋  
冬  
春

マガモ(全長約59cm)

秋  
冬  
春

ミヤコドリ(全長約45cm)

秋  
冬  
春

ホシハジロ(全長約45cm)

秋  
冬  
春

ヒドリガモ(全長約49cm)

秋  
冬  
春

小さい

全

## コラム 渡りのルート

シギ・チドリ類などの旅鳥は、繁殖のために北へ移動したり、越冬のため、南へ移動します。この移動を「渡り」といいます。

博多湾はシベリアなどからサハリン経由で日本を縦断し南方へ渡るルートと、朝鮮半島から九州を経由し南方へ渡るルートの交差する場所です。

春と秋にはシギやチドリが渡りの中継地として、和白山潟を利用します。秋に北方からやってくる鳥の中には、最終的にはオーストラリアまで飛んでいくものもいます。

また、冬にはシベリアからたくさんのカモも冬を越すためにやってきます。



クロツラヘラサギ(全長約76cm)

秋  
冬  
春

ダイサギ(全長約90cm)

春  
夏  
秋  
冬

アオサギ(全長約93cm)

春  
夏  
秋  
冬

ツケンガモ(全長約63cm)

冬  
春

カワウ(全長約81cm)

秋  
冬  
春

渡り鳥たちと出会う季節の目安です。

春 夏 秋 冬

- 写真以外の鳥も見ることができます。
- 後ろの生きもの図鑑で調べてみよう！

長

大きい



## 和白山干潟の楽しみ方

### その3 干潟の生きもの観察（カニや貝を探してみよう!）

#### ●事前のプランニング

潮汐表を見て干潮時間をチェック!

\* 潮汐の情報は新聞や「福岡市海づり公園ホームページ」で見られるよ!

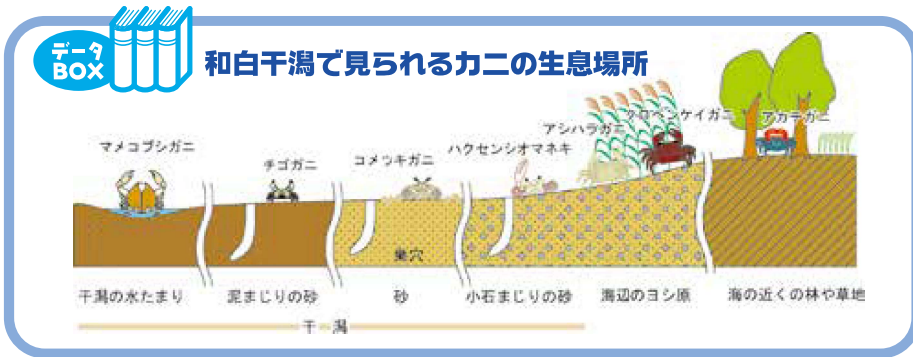
福岡市海づり公園のURL <http://www.umizuri.com/>

#### ●必須アイテム

・スコップ、熊手など ・長靴 ・帽子 ・エコパークゾーンガイドブック(本紙)

#### ●カニや貝を探してみよう!

- ・カニは夏にたくさん見つけられるよ。何種類見つけられるかな?
- ・カニも貝も、種類によってそれぞれすんでいる場所が違うよ。
- ・生きものの採集は控えて、自然はそのままに。



### その4 干潟の植物観察（ハママツナの紅葉を見よう!）

#### ●事前のプランニング

紅葉する11月頃が、見ごろです。

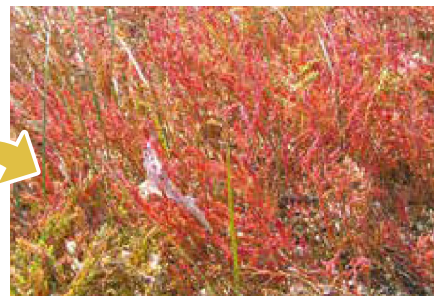
#### ●よく見られる場所

海の広場から唐原川にかけての海岸線

夏頃のハママツナ



紅葉したハママツナ



## 干潟や磯浜に行く前に

### 海辺に出る服装など

#### 靴

- ・長靴など水に浸かってよく、すべりにくい靴がおすすめ!
- ・足をしっかり守ってくれることも大切!
- ・サンダルは滑る上に脱げやすいのでNG!!
- ・濡れてもよければ履き慣れた運動靴でもよい。

#### 帽子

・海は日陰がないので暑さや紫外線対策のためには必需品!

#### 厚手の手袋

・とがった貝殻や漂着物などで手を切らないように! 軍手がおすすめ!!

#### 長そで・長ズボン

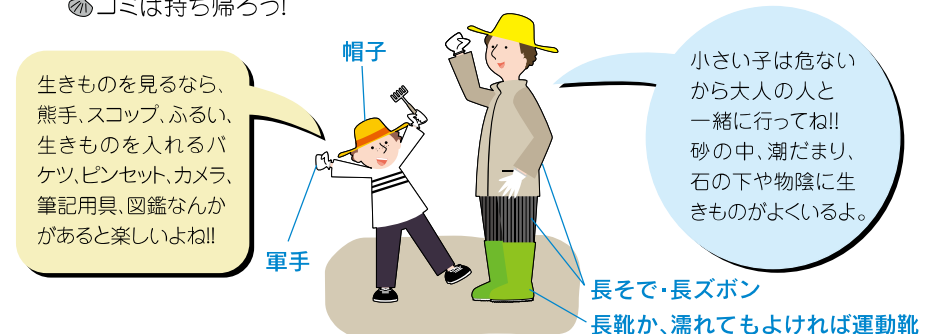
・日焼けや紫外線、そして転んだ時のためにも半そで・半ズボンはNG!!

#### その他

- ・水分補給に水筒、濡れたり汚れたりしやすいので着替え、タオル、手足洗い用の水があると便利!
- ・救急箱の中にはすり傷に対応できる消毒液、ばんそうこう、ガーゼが必須!

### その他のアドバイス

- ① 干潮時間のチェックを忘れずに! 潮の引いている時間を狙って行こう!  
(新聞や「福岡市海づり公園ホームページ」で見られるよ)  
福岡市海づり公園のURL <http://www.umizuri.com/>
- ② トイレはないので、先にすませておこう!
- ③ 岩場はすべりやすいので走らない!
- ④ 岩や石はグラグラしたものも多いので乗らない!
- ⑤ 捕まえた生きものはなるべく海に返そう!(アサリはいいけど...)
- ⑥ ひっくり返した石などはできるだけ元の状態に戻して帰ろう!
- ⑦ ゴミは持ち帰ろう!



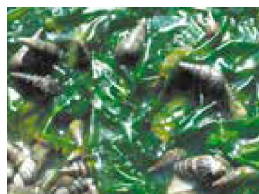


## アオサのお話

アオサは海の栄養を吸収して日光で育つ海藻で、コンブなどと異なり、海水中を漂って成長します。その成長スピードは速く、10日間で約10倍もの大きさになりえます。

生活排水などに由来する栄養分が豊富な都市部の海では、全国的にアオサの大量発生がみられています。

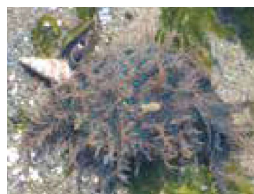
アオサはよく悪者扱いされますが、適度にあるアオサは、巻貝やヨコエビなど干潟の生きもののすみかになります。また、ヒドリガモなどの鳥やアメフラシなどの餌にもなっています。



アオサにくっつくウミミナ



アオサをついばむヒドリガモ



アオサを食べるアメフラシ

博多湾東部は光が届きやすい浅い海域が広がっており、昭和50年代前半には、アオサが大量に発生していたようです。

和白干潟では秋頃にアオサが発生し、干潟に積もって腐ると、悪臭の原因となったり、アサリなどの干潟の生きものに影響を及ぼすこともあります。

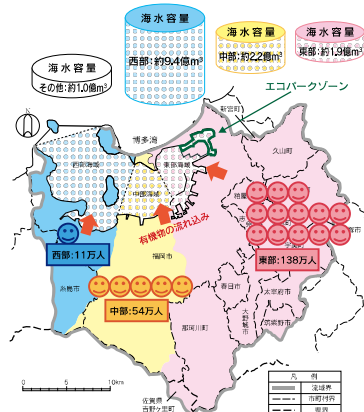
そこで、福岡市では和白干潟周辺の悪臭防止を目的として、アオサの回収を行っています。

また、回収したアオサを使って、平成18年度から市民団体がアオサの堆肥化に取り組んでいます。

和白干潟でのアオサの発生状況  
(昭和62年10月撮影)

アオサの堆肥化の様子

## コラム 博多湾の環境



博多湾は東西に細長い内湾で、西端にある湾口は狭く、海水の交換が行われにくい地形となっています。また、水深は平均で10.8mと比較的浅く、湾奥の東部海域は5mほどしかありません。

湾の流域には約203万人の方が住んでおり、生活排水等に含まれる有機物は、下水処理場を通り、最終的には博多湾に流れ込んでいます。

東部海域の流域人口は約138万人ととても多く、海水容量が少ない海域に大きな負担がかかっています。

エコパークゾーンでは「自然と人の共生」をめざして、「海の中の環境づくり」に積極的に取り組んでいます。

## 和白干潟のエコチャレンジ アオサのお掃除大作戦!!

「和白干潟保全のつどい」や市民、地元企業などと共働\*で、アオサの清掃活動を行っています。干潟に積もったアオサを清掃するとともに、和白干潟の豊かな自然を保全するため、干潟の環境について理解を深めてもらう活動です。みなさん、ぜひ参加してください!

※共働:福岡市では「対等な立場で、共に汗を働くこと」という意識から「共働」の字を使用しています。



大人も子どももみんなでできる作業です。回収したアオサはそりで運びます。

**コラム みんなで守り育てるエコパークゾーン～和臼干潟ゾーン～**

エコパークゾーンの環境をよりよいものにしていくには、みんなが一緒になって取り組んでいくことが大切です。ここでは、すでに始まっているいくつかの取組を紹介します。

**■和臼干潟保全のつどい**

和臼干潟を中心に活動する市民団体や行政（福岡市）が毎月1回意見交換をしながら、啓発看板の設置や干潟の自然観察会など、和臼干潟の環境保全に向けた共働事業を企画・実施しています。

活動のお知らせは、市政だより等で行っています。ぜひ参加してみてください。楽しいよ！



みんなでデザインした看板



干潟の生きもの観察会



バードウォッチング

**■地元小学校との連携・共働**

御島ゾーンに引き続き、和臼干潟ゾーンにおいても、海の生きものの生息場となる「アマモ場」づくりを始めており、その一部は、地元小学校と一緒に取り組んでいます。

アマモを観察して生態を学んだり、種から育てたアマモを海へ還す学習などを通して、身近な博多湾の環境を考え、海を大切に作る心を育てています。



アマモの観察と種の準備



アマモのポット苗づくり



生長を観察します

**アイランドシティはばたき公園の整備**

『アイランドシティはばたき公園』は、アイランドシティ北東部に整備する新たな公園で、エコパークゾーンと機能分担・連携を図り、人と自然との共生を象徴する空間として整備を進めています。

**アイランドシティはばたき公園の目指す姿(目標像)****令和6年度から供用を開始する範囲(予定)**